

ダムに関する質問 Q & A

Q 1 : ダム建設後の長期運用をどのように考えていますか？

A 1 : 水の運用の場合、堆砂により計画容量が不足することが考えられますが、延命対策として浚渫や排砂などを実施することにより、ダム施設は半永久的に利用可能と思われます。時代に即した改良や使用方法により有効に利活用することが必要ではないかと思えます。
(回答者：小池氏)

Q 2 : どのような経緯で「開かれたダム」になったのでしょうか？

A 2 : 従来も「閉じられたダム」であろうと意識したことはありませんが、主として安全性の確保と余分な手間を取られたくないという気持ちから、結果として十分には開かれていませんでした。意識的に開かれたものにしようとしたのは、ダムに対する理解を高める手段として考えられたためであり、その背景としてはダムが造りにくくなってきたことがあります。

従前はダムを造るべきであるという使命感に燃え、権力を背景に強引に建設を進めた経緯もありましたが、国民の権利意識の高まりや、水没者およびダム周辺の関係者の生活再建に対する配慮の欠如等により、ダムが出来るとろくなことがないという風聞がダムを造りにくくしてきていました。

ダムが安全であり、様々な役目を果たして、環境にも配慮していることを国民に理解してもらうには、現物を見せるに如かずということで、「開かれたダム」となりました。また付随的に、既設のダムの環境整備なども事業化されました。
(回答者：中村氏)

Q 3 : 近年、世間一般からのダムへの風評について、ダムに長年携わってきた技術者としての知見を教えてください。また、そのような風評から脱却するために土木技術者がすべきことは何でしょうか？

A 3 : いままで建設されてきたダム総てが不必要であったとの議論はないものと思われます。現在完成しているダムの働きを身近な人達に理解してもらうことが重要です。また、これから建設されるダムについては、いままで蓄積された知見をもとに、環境への影響や対策、ダムによる効果を十分に説明していくことが必要です。

なお、個々のダムに関わる問題については、ダム事業の背景（地域振興や水没者移転）や影響等についても熟知し理解した上で、対処していく必要があると思われます。
(回答者：小池氏)

Q 4 : 7月中旬に発生した新潟県中越沖地震のダムへの影響についてどう思われますか？

A 4 : 新潟県中越沖地震のダムへの影響については、現在国を含む公的機関等にて、情報収集及び分析調査しており把握出来ていない状況です。

(回答者：事務局)